

観 察 会 報 告

● 千町原の保全活動

開催日時 : 2011 年 7 月 30 日 (土) 8:00

八幡でもやっと夏らしくなった7月の終わりに、千町原の夏の草刈りが行われました。参加者は50名。早朝から元気いっぱいの姿をみせてくれました。何度も来られている方が多く、会話を交わしたり、スタッフを手伝ってくださったりと、みなさんのスムーズな動きで草刈りの開始を迎えることができました。

今回も、外来種のオオハンゴンソウの除去および、草原維持のため刈り取りを続けている場所の草刈りを、2班に分かれ作業します。白川学芸員より、新しいパネルを使って、夏の草刈りの効果について説明があり、みなさん熱心に耳を傾けていました。この時期植物は花や茎に栄養をためているので、草を刈る事によって翌年の成長をおさえることができ、夏に草刈りをする事は効果が大きいとのこと。また、栄養のある草が取れる、とのお話もありました。今回の試みはもうひとつ、「刈り取った草の持ち出し」です。今までは集めるだけでしたが、それを一カ所に集め、草を堆肥などに使う農家さん達が利用しやすいようにと考えました。

今までの「草を刈る→集める」の作業に、「軽トラまで運ぶ→軽トラに積む→下ろす」という作業が加わりましたが、役割分担がされ、ブルーシートを使ってどんどん草が運ばれました。

途中でざあーと雨が降りました。雨の中の作業は疲れますが、みなさんとの会話や冷やしたスイカ、八幡の美味しい野菜をおやつに、声をかけあい作業を続けました。

みなさんが作業している場所までアメを配ってくださった方もおり、スタッフが慌ただしくしている中、大変助かりました。

「千町原の草原を維持しよう」という目的を持ち、ボランティアのみなさんと気持ちをひとつにし作業をすることは毎回楽しみでもあり、経過や成果を共有できる感動も生まれます。

毎年の草刈りの効果でしょうか？今年も千町原で、ユウスゲやノハナシヨウブ、クサレダマ、ミソハギ、ミズチドリなどが色とりどりの花をみせてくれました。

草の利用方法やスタッフ不足などの課題もありますが、知恵を出し合い、行動することによりよい活動を続けていきたいと思いました。

次回は秋の草刈りです。「また秋に！」という嬉しいあいさつを交わし、千町原をあとにしました。[ころのやよい]



山麓庵の前ではじめの会。



環境省指定特定外来生物であるオオハンゴンソウ。



川のほとりでの解説中。実物を見ながらなので、自然と熱が入る。



調査を終えて元の場所へと放しに行く。



脱皮中の個体の前足。薄く透明な皮が、指先に付いている。



調査中に見つけた魚をみる。魚だけではなくスジエビも見つかった。



個体識別のために埋め込んだマイクロチップを探す。見つからなければ未発見の個体として、新たにチップを埋め込んでいく。

【みなさんの印象に残った物】

「自然に生きるオオサンショウウオが見ることができたこと(4)」「太古の生物はすごい。河川で大きさと古さで食物連鎖の王様です」「オオサンショウウオのにおい」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「魚を捕まえられてうれしかった」「初めてオオサンショウウオを見て身近に感じた。」「身近な自然に触れることができてよかった。」「川の流れは変わらないように見えるが水質はどうか考えさせられた」「身近にオオサンショウウオがいることがわかったこと」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

開催日時：2011年9月17日(土) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：岩見潤治・大竹邦暁・和田秀次
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

高原の風が心地よく感じる秋。湿原にはどんないきものがいるのでしょうか？どんな花が咲いているのでしょうか？霧ヶ谷湿原の木道をゆっくり歩きながら専門家の先生のお話を聞きましょう。霧ヶ谷湿原の成り立ちやこれからを聞くこともできますよ。

● 霧ヶ谷湿原の植生調査(秋)

開催日時：2011年9月25日(日) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：佐久間智子・白川勝信
準備：作業セット
定員数：30名
参加費：無料

毎年夏と秋の二回、霧ヶ谷湿原では調査場所を決め、1m×1mの中にどんな植物が生育しているかを調査しています。霧ヶ谷湿原が湿原へと回復していくプロセスを見るのに貴重なデータとなります。初心者の方でも気軽に参加下さい。

● キノコ観察会

開催日時：2011年10月8日(土) 9:30
集合場所：聖湖キャンプ場入口駐車場
講師：川上嘉章
準備：基本セット、キノコを入れるかご(ビニールの袋より通気性の良いかごが良い)
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

秋のお楽しみはキノコ！観察会時に採取した変わったキノコ、おもしろい形のキノコ、見たことあるけれど名前が知りたいキノコなどを専門家の先生に見ていただき、名前を聞いたり、キノコの生態を教えてください。キノコを採集するカゴをお持ちください。

● サツキマス保全の試み

開催日時：2011年10月10日(月) 9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

八幡の川には産卵のため遡上してくるサツキマスが生息しています。観察するだけでなく、サツキマスの生態を知り、保全の手だてを考えます。内藤先生にから詳しい講義を聞いたあと、実際に川に行きサツキマスを観察・計測します。

8月の初めに、黄色の花を咲かせていたトモエソウに代わり、今は赤紫色の小さな花を咲かせたミソソバや、自身の身体を赤く染め始めたトンボ達が、霧ヶ谷湿原を華やかに飾っています。また、草刈りを行った千町原の板歩道の傍では、サワギキョウが咲いていました。車道には、緑色をした若いクリのイガも落ちています。お盆が過ぎ、少しずつ秋の姿に変わっていく八幡高原を感じながら、次はどこを歩いてみようかと心躍らせる日々を送っています。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 92 号

2011.9.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

おしらせ

- ー八幡高原散策マップ（千町原編）発売について
- ー「芸北の自然 ～その魅力と保全～」講座について

活動報告

- ー千町原の保全活動
- ーカワシンジュガイの観察会
- ー可愛川の水生生物観察会

観察会案内

- ー霧ヶ谷湿原 秋の生き物観察会
- ー霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）
- ーキノコ観察会
- ーサツキマス保全の試み

お し ら せ

●八幡高原散策マップ（千町原編）発売のお知らせ

八幡高原散策マップが水口谷編に続き、千町原編が完成しました。高原の自然館にて、一部 50 円で販売しています。

表面にはおすすめ散策コースや、おすすめスポットの紹介があります。裏面には八幡高原で見ることのできる植物を写真入りで紹介しています。

八幡高原の散策のおともにぜひどうぞ。

●「芸北の自然 ～その魅力と保全～」講座のお知らせ

中国新聞文化センターの文化教室にて、白川学芸員の講座が始まります。たくさんの方のお申し込みをお待ちしています。

講座名：芸北の自然 ～その魅力と保全～

受講料（税込）：6,930 円（全 3 回）

※入会金不要

講師：芸北 高原の自然館学芸員 白川 勝信

受講日時（全 3 回）：

・10/3(月) 八幡湿原と生物、八幡湿原自然再生事業

・11/7(月) 雲月山の草原の生態系、雲月山の保全とこれから

・12/5(月) 北広島町のとりくみ
(生物多様性の保全、活用)

※ 13:00 ～ 14:30

会場：中国新聞文化センター クレドビル教室

受講のお申し込み・お問い合わせ：

中国新聞文化センター クレドビル教室

〒730-0011

広島県広島市中区基町 6-78

基町クレド(パセーラ)11 階

電話 082-502-3456

観 察 会 報 告

● カワシンジュガイの観察会

開催日時:2011年7月31日(日)9:30

講師:内藤順一

少し雲がかかり、外に出るにはちょうど良い気温の中、芸北文化ホールに5名が集合しました。今回の講師は内藤先生です。最初に会場内でカワシンジュガイについて話しを聞きました。1986年の工事中の河川で発見され、それより前に確認されたのは15年前だったこと。芸北地区が生息域の最南端で、県や町の天然記念物や絶滅危惧種に指定されていること。アマゴに幼生を寄生させ、しばらく成長したあとに再び川底に戻ってくること。繁殖方法の判明や保護活動により、発見当初33個体だったが、1200個体まで増えたことなどを教えていただきました。

その後、車で観察場所へ移動して、カワシンジュガイを観察することになりました。川に入って間もなく、内藤先生がカワシンジュガイを発見されました。半身を川底に埋めている姿は、芸北地域で呼ばれている「立ち貝」という別名にふさわしいものでした。川の流れは思っていたよりも早く、貝の幼生が流されてしまわないか疑問に思いましたが「殻糸(かくし)とよばれる糸状のひものようなものを出し、石につけて、流されないように固定している」と説明されました。また流れの緩やかな川のふちにはアブラボテの幼生をみることが出来ました。「アブラボテはカワシンジュガイの殻内に卵を産みつけ、稚魚を守らせる方法で子孫を残し、そのカワシンジュガイはアマゴに幼生を寄生させることで、生息場所を広げていく。釣りや漁でアマゴが減ると、この2種類も減ってしまう」と内藤先生は言われました。この他にも、カワヨシノボリやシュレーゲルアオガエル、ヒゲナガカワトビゲラの幼生などを観察することができました。生き物は単独で生きているのではなく、様々な別の生き物とつながることで生きていて、そのつながりを自分たちも感じることができた観察会となりました。[ありみつますかず]

※観察会での採集は許可を得て行っています。



文化ホールの教室でお話。写真は芸北の川に生息する二枚貝の種類について。



山の向こうを指差す内藤先生。似たような環境の川が流れているが、あちらにはカワシンジュガイは生息していないことを聞いた。



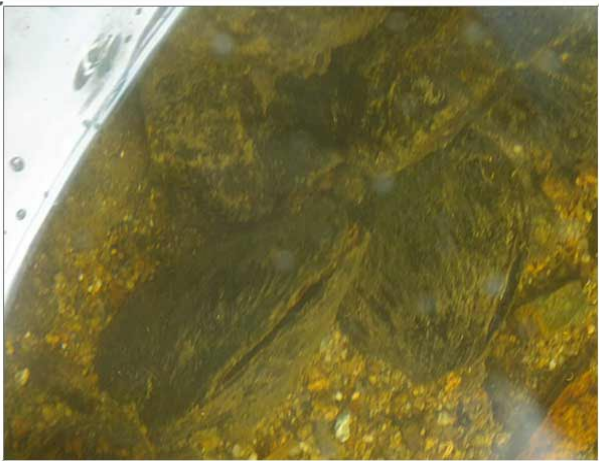
川に入ってカワシンジュガイを探す。



アブラボテの幼生をみつけた。



小さなシュレーゲルアオガエル。目の周りを見ることでアマガエルと区別が出来る。



2匹のカワシンジュガイを発見！うっすらと口を開いている



腹部から産卵管を出しているアブラボテのメス。



手に取って見てみる。左右で泥の付き方が違うのは、半身を川底に埋めている証。

【みなさんの印象に残った物】

「自然の姿のカワシンジュガイ、アブラボテ」「現地の川にいたカワシンジュガイ、小さい貝が殻糸をだして流されないようにしていること」「事前の座学」「今年もカワシンジュガイに会えて感激した」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「目的の貝だけでなく、色々な魚もみる事ができました」「多くの方に聴いてほしい講座でした」「少人数だったので思ったこと質問することができ、その上で実際の川に行く、というのは非常によかった」「毎年参加し、カワシンジュガイ、アブラボテ、アマゴの共生の深さが少しずつ分かってきた」

観 察 会 報 告

● 可愛川の水生物観察会

開催日時:2011年8月7日(日)13:00

講師:内藤順一

主にオオサンショウウオの観察と調査をする可愛川の観察会に11名の方が千代田公民館へ集合しました。講師は内藤先生です。最初に同館内でオオサンショウウオについての話がありました。オオサンショウウオは世界最大の両生類で大きさは150cmを超える個体もいることや、目の前で動いているものは何でも口に入れるので、様々なものが胃袋から出てくること、生息域は西日本に集中しており、岐阜県より東にはいないことなどを教えていただきました。

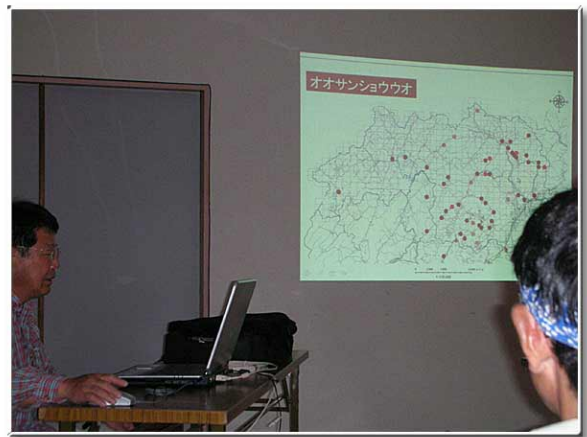
話を終えた後は、車で観察場所まで移動しました。車から降りて川の横を歩いていると、内藤先生が「あそこにおるよ」と声をかけられました。その先には、堤の端に出てきているオオサンショウウオの姿が見られました。「遡上しようとする魚が、堤に沿って横へと移動する。あそこにいればその魚を楽に捕食できる」と解説されました。川に入り、まずは上から見たオオサンショウウオの所へと向かいました。2mほどまで接近しても逃げるそぶりを見せませんでした。「これくらいまで成長すると、この付近では生態系の頂点になる。敵がいらないからあまり隠れたり逃げたりしなくなる」と話されました。

その後、5匹を捕獲して、それらの個体の調査を始めました。捕獲した個体に、それぞれ違う番号をもつマイクロチップを注射器で身体に埋め込んで放し、次の調査の時に身体を調べて、マイクロチップをつけていない個体には新たに埋め込んでいく、という方法でこの周辺の個体数を数えていきます。この方法で、現在100匹を超える個体がこの流域に生息していることが判明しています。今回の調査では5匹のうち4匹が新たに発見された個体だということが分かりました。「たくさん生息しているようにみえるが、幼体は確認されていない。今いる成体がいなくなると、ここでオオサンショウウオを見ることは出来なくなるだろう」と、繁殖場所がないことに危機感をもたなければいけないことを教えていただきました。また調査中に、イトモロコ、ギギ、カワヨシノボリなどの

魚や、スジエビなども見つけることができました。

生息しているからと安心するのではなく、繁殖場所の確保や、遡上するための道の設置など、生物がきちんとしたサイクルを送れるようにすることが重要だと感じた観察会になりました。[ありみつませかず]

※観察会での採集は、許可を得て行っています。



公民館内でお話を聴く。写真は北広島町内での生息域について。



堤の端に出ていたオオサンショウウオ。息継ぎのために水面から鼻先を出している。



刈られた草をブルーシートにのせる。



切った木を整理中。けっこう重たい。



ブルーシートの草を軽トラに移動させる。これがけっこう難しい。



すっかりきれいになった草原で記念撮影。



バッタも休憩中？



作業後は希望者で昼食。かりお茶屋特製のお弁当をいただきます！